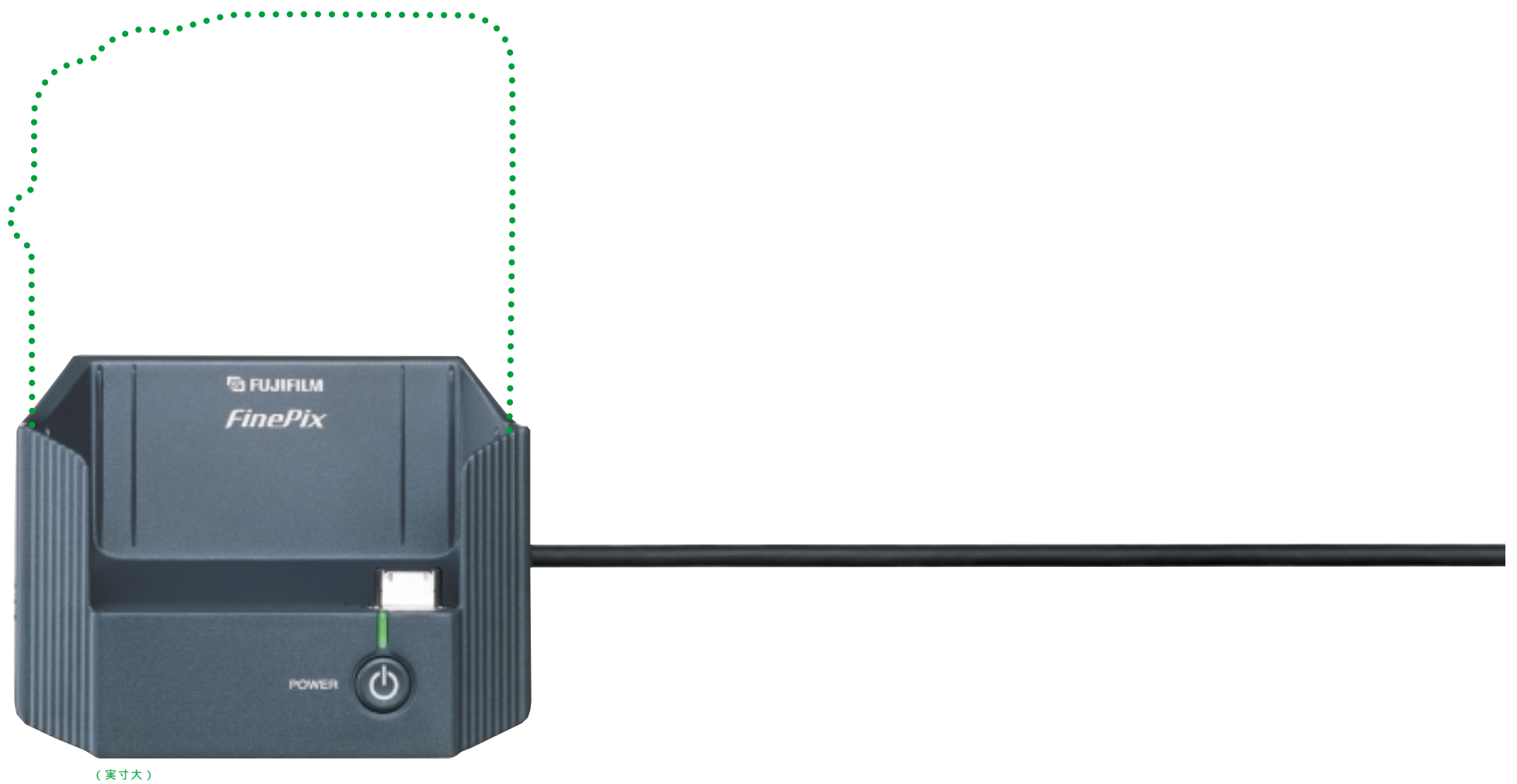


イメージしてください。  
ポルシェデザインの最新鋭デジタルカメラ。  
……でも、今回は本体でなく、その「ガレージ」のお話。  
ネット時代のための新しいシステムが、ここにあります。



(実寸大)

たとえば、いままでのデジカメとパソコンの関係って、どうだったでしょう。デジカメを「クルマ」に、パソコンを家やオフィスなどの「建物」にたとえてみます。クルマは、画像という「荷物」を積んでいます。建物に移すためには、トランクを開けて荷物を取り出し、ドアを開けて運びこむ、みたいな手順が必要でした。コードを接続したり、ソフトを起動したり。意外と面倒なんですよ。だからといってせっかくのデジタル画像を、パソコンで活用しないのはもったいない話。旅行のおみやげとか、仕事の資料をクルマに積んだまま、というのに近いかな。

それは、面倒くさがる人間がわるいわけじゃない、とフジフィルムは考えます。いわゆるIT革命って、いろいろなことを可能にしてくれるけれど、そのためには複雑なセッティングや操作が必要だったりします。まだまだそれが実情です。いくら「便利」だといっても、人間が「でも面倒くさい」と感じたら、それはほんとうの「便利」ではないでしょう。フジフィルムは、デジカメとパソコンの関係をもっと近くする、もっと一体化する新しいシステムを開発しました。入口はこのピクチャークレードル。デジカメがクルマなら、これは画期的な「ガレージ」です。

まず、このガレージは充電台でもあります。ガソリンスタンド付きのガレージ、ですね。さらにパソコンとUSBケーブルで常時接続してボタンを押すだけで画像を自動表示します。ガレージにコンペアがある。いや、ポーターがいてくれる、みたいなものかな。そのままいろいろなインターネットサービスにもつながります。プリントの注文をオンラインでしたり、画像の「保管」や「アルバム公開」や「写真メール」などにも広がって……。となると、これはもう、たとえができないほど新しいシステム。ですから、フジフィルムはこのシステムやサービスを総称して「Picture The Future」と名づけました。FinePix 6800Zの新しさは、機能やデザインだけではありません。写真の未来を、はじめます。

国境やことばを越えたコミュニケーション。それが、image。人間の知的精神的活動が発達するかぎり、imageの創造と蓄積は加速度的に拡大しつつけるでしょう。私たちは過去に例のない質と量と速度の「imageの世紀」を、すでに迎えています。光学、化学、電子工学から人間を知る認知科学の領域まで。「imageを科学する」世界的フロンティアとして、フジフィルムは21世紀のメインストリートを進みます。



Vol.  
FinePix  
Picture the Future  
FUJIFILM  
I&I-Imaging & Information  
www.fujifilm.co.jp

imageする会社。FUJIFILM